

WAZNEXA | FIELD TRAINING CASE STUDY

新人教育の 実践事例

守ることを教え、考える余白を残す。
そして、任せっぱなしにはしない。

製造現場で実際に行ってきた教育方法と、
教える側の失敗から得た学び



WAZNEXA

これは、新人教育の成功法則ではない

製造現場経験 約26年。

真空装置の製缶・溶接・歪取りに17年携わり、
実際にどう教え、どこで失敗し、
何を変えたのか。

この資料で整理したこと

- 実際に行っていた教え方
- 任せる範囲の広げ方
- 教える側としての失敗
- 失敗から変えた考え方

自社の教育と照らし合わせながら読むための、実践事例である。

経験年数だけで判断せず、理解度と実際の技量を見る



新卒・未経験者

仕事の前提から
一つずつ確認

中途入社経験者

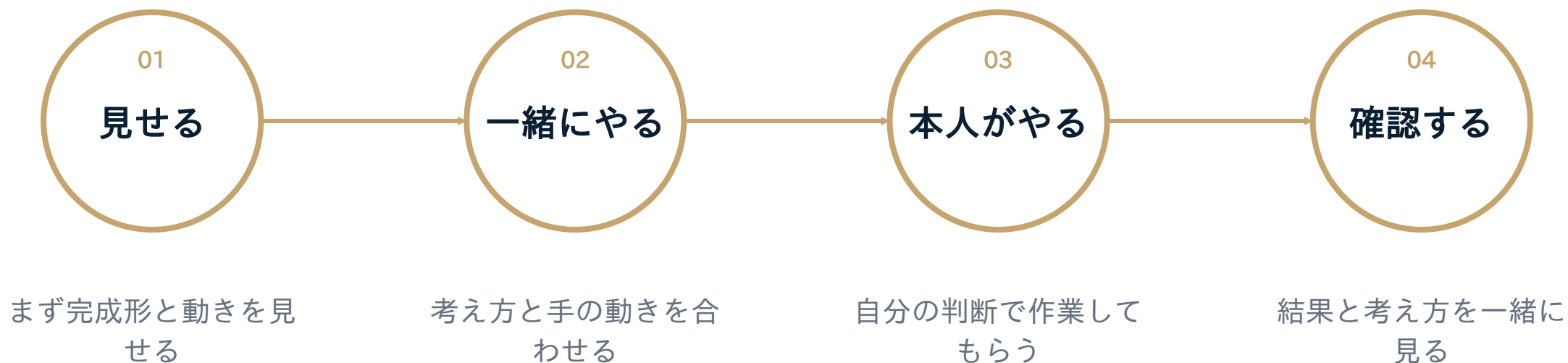
経験の中身と
仕上がりを確認

サプライヤー作業員

聞いていた情報だけで
判断しない

経験の有無に関係なく、相手を見て教え方と任せ方を変えていた。

教え方の基本は、4つの動作を繰り返すこと



できるようになるまで見守り、できる範囲が増えるほど任せる範囲を広げた。

「任せる」と「放置する」は違う

任せる



技量に合わせて任せる
要所で途中確認する
次へ進む前に確認する

放置する



任せた後の状態が見えない
理解のずれを途中で拾えない

任せるとは、確認できる距離で仕事を渡すことだった。

答えを渡す前に、本人の考えを聞く

なぜ、こうなったと
思う？

すぐに答えを教えず、まず考えてもらう

考え方が違っていたときに伝えたこと

- なぜ、そうなるのか
- どういう理屈なのか
- どこを見ればいいのか
- どう考えればいいのか

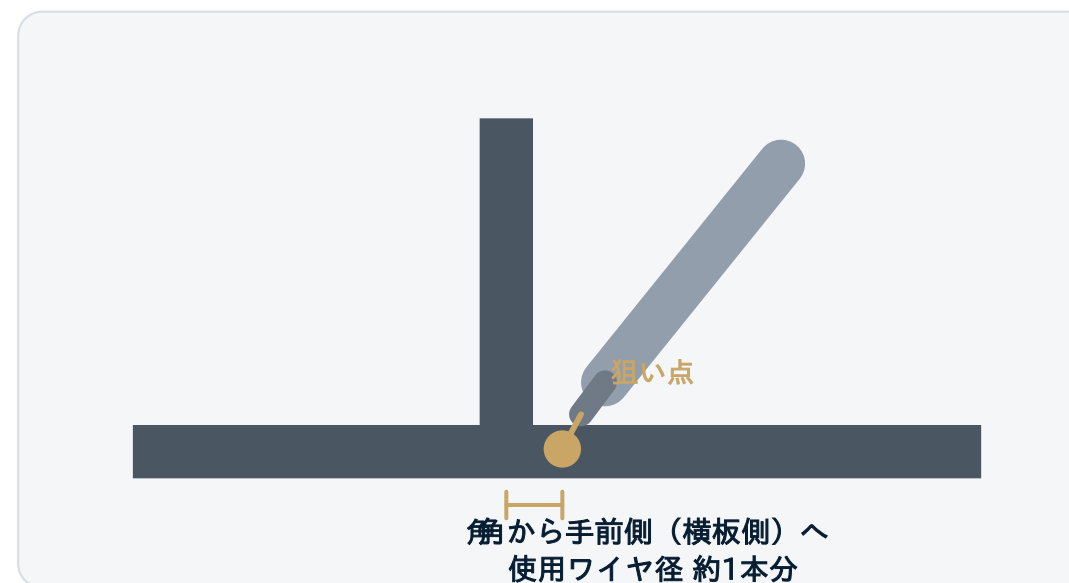
答えよりも、次の仕事にも使える見方を伝える。

条件を守り、数値だけでなく実際の現象も見る

電流・電圧は基準。
数字だけで終わらせない。

- 作業姿勢
- トーチの角度と狙う位置
- 溶け方・アーク・溶融池

図面・溶接指示・会社や客先の規定、
承認された条件を守ったうえで見る。

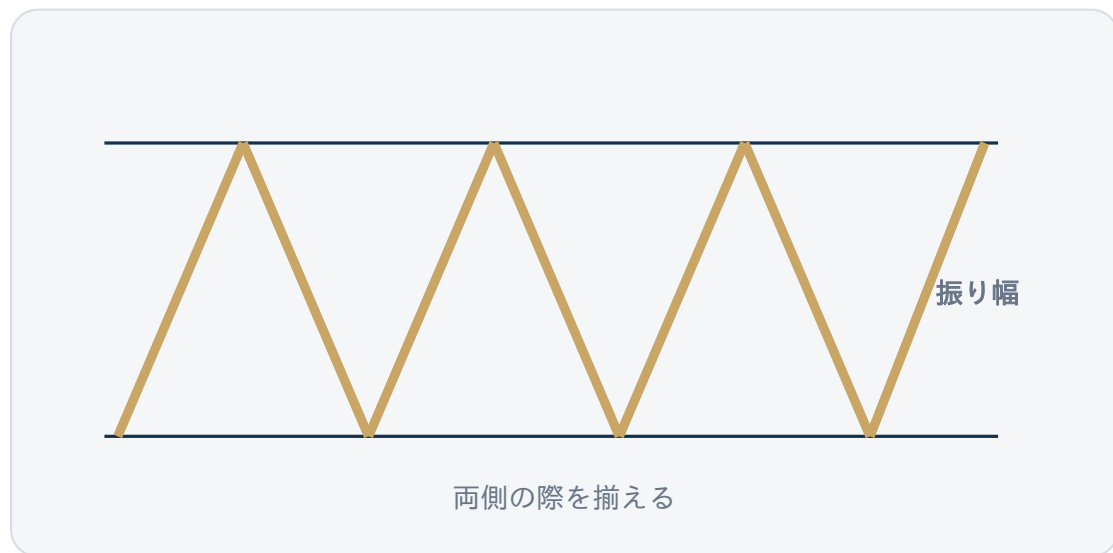


私が教えていた
狙いの目安

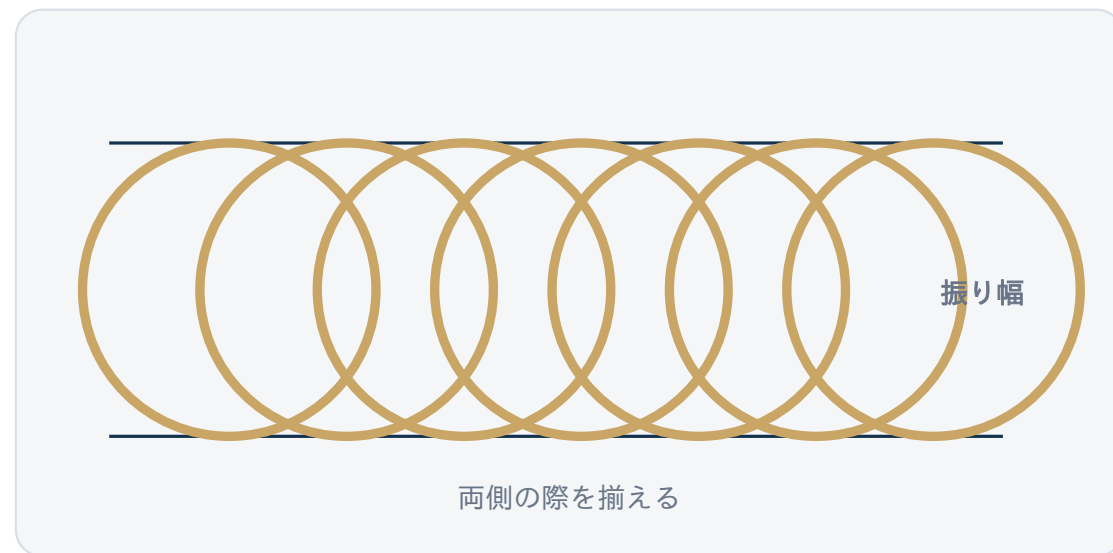
※ 条件や継手によって狙い位置は変わる

施工条件の範囲で、自分に合うウィービングを選ぶ

ジグザグ



円を描く

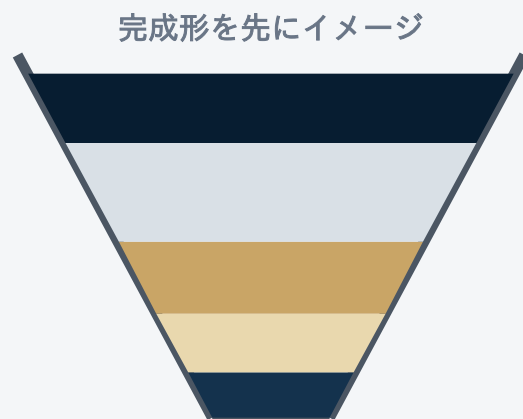


動かし方は一つに固定しない。ただし、両側の際と振り幅は揃える。

※ 継手・姿勢・施工条件・会社基準の範囲内で行う

開先は、際を溶かし、完成形から逆算して盛る

開先内の積み方（説明用）



※ 層数・パス数を指定する図ではない

私が教えていた 3つの基準

- 1 開先面の際を確実に溶かす
- 2 前パスとの境目に深い谷を残さない
- 3 板厚・開先・WPSを確認し、仕上がりまでを先に考える

新人には「ただ乗せず、際を溶かしながら肉を付ける」と伝えていた。

※ 層数・パス数は板厚・開先形状・溶接条件・WPSなどで変わる。図は説明用イメージ。

組立順を覚える前に、完成形から逆算する

この順番で組め

順番の丸暗記で
終わらせない

目的は
自分で組立順を考えられること

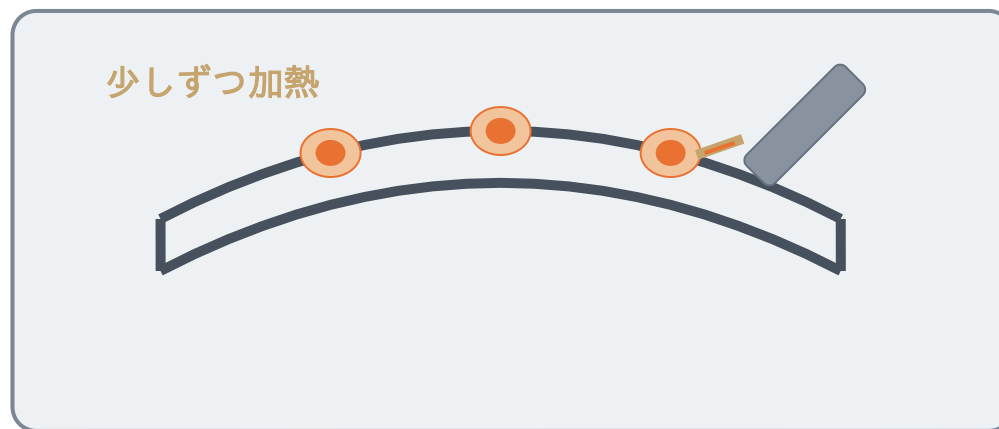
考えてもらった4つの問い

- 01 どの順番なら作りやすいか
- 02 どこを先に確認すべきか
- 03 次工程にどう影響するか
- 04 完成形から考えると、どう組むか

焼く場所だけでなく、縮みと動きを考えてもらう

焼く場所だけを覚えさせない。

- ここを焼いたら、冷めたときにどこが縮む？
- 製品は、どちらに動く？
- どこを動かしたい？



加熱位置・範囲を
現物に書いて説明

実作業は材質・板厚・温度管理・会社基準に従う。この図は説明方法のイメージであり、作業手順ではない。

守るところは明確にし、その中に考える余白をつくる

勝手に変えてはいけない

品質

安全

図面

会社・客先の規定や標準

条件を守ったうえで工夫できる

- 標準で固定されていない段取り
- 安全・品質を守った作業姿勢
- 道具の配置・ムダを減らす工夫

品質・安全・標準作業に影響しない範囲で工夫し、
変更案は責任者に相談してから試す。

やり方まで全部固定しなかった理由

同じものを作る場合でも、
その順番がいつでも一番とは限らない。

絶対に守る条件



考える余白



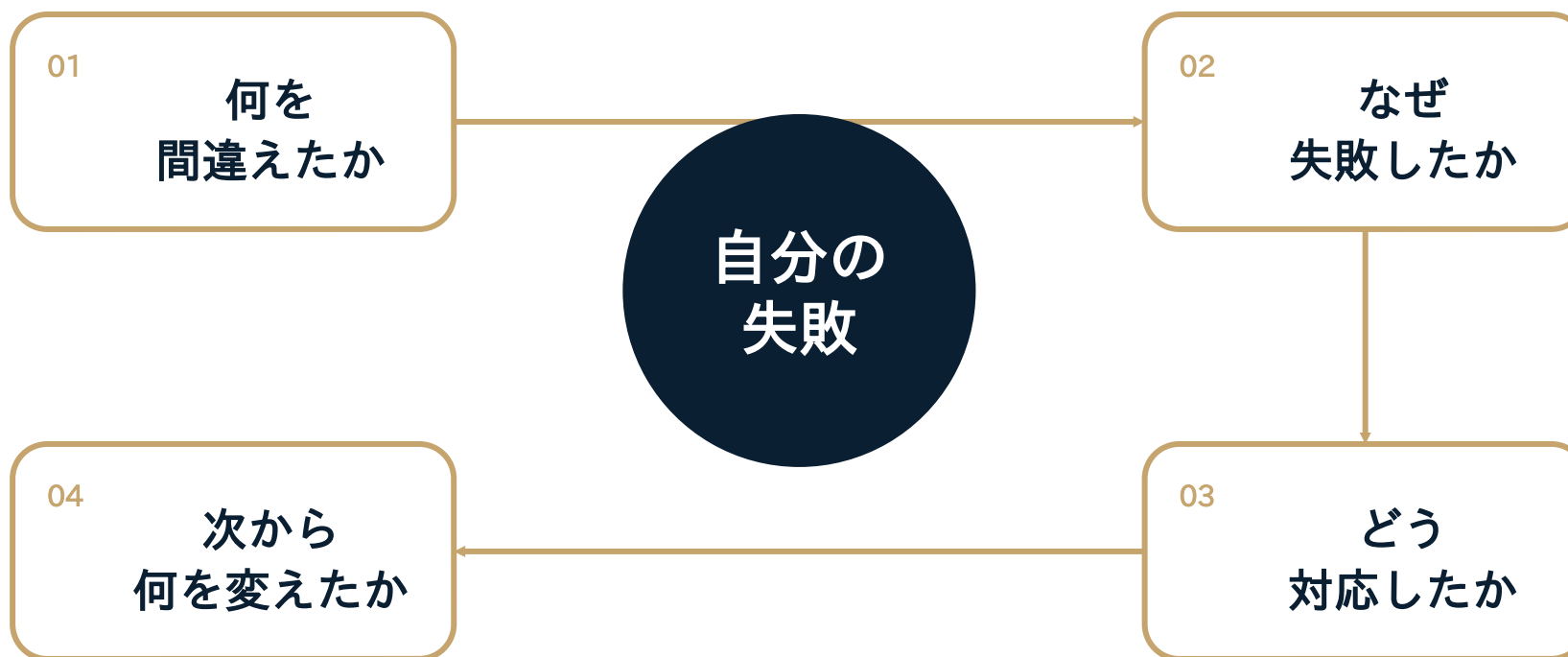
より良い手順を
自分で組み立てる

狙っていたこと

作業改善 / ムダの削減 / 工数短縮 / やりやすい方法の発見

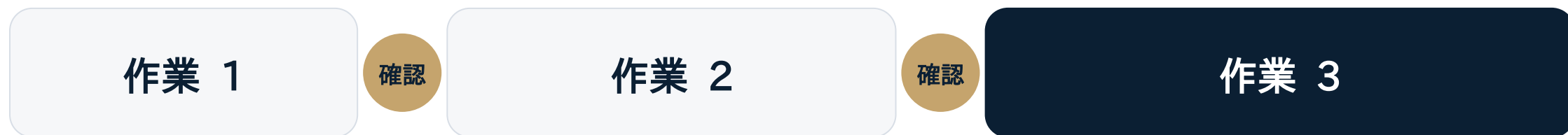
安全・品質に影響する方法を、自由に試させていたという意味ではない。

自分の失敗も、判断の変化まで含めて伝える



成功例だけでは伝わらない、迷い方と立て直し方がある。

一つの仕事ごとに確認し、任せる範囲を広げる



本人から声をかけてもらう



確認してから次へ

できるようになるほど、任せる範囲を少しずつ広げた。

小さく任せる

広く任せる

成長を感じたのは、本人から提案が出たとき

言われた作業を
そのまま行う



作業内容を考え
自分から提案する

実際に起きた変化

組立順や溶接順など、作業内容について本人から提案が出るようになった。



提案を採用して終わりではなく、試した結果から次の改善につなげた。

経験者だからできると、技量確かめずに任せた

実際に起きたこと

「溶接ができる」と聞いた
↓
そのまま任せた
↓
仕上がりが期待水準に届かなかった

この経験から変えた確認

- 01 経験の中身を聞く
- 02 最初の作業を見る
- 03 仕上がりと動きを確認する
- 04 任せる範囲を決める

相手を責めるのではなく、教える側が見極めを省いた失敗として整理する。

「言った」と「伝わった」は同じではない

伝えたこと

実際に起きたこと

逆ひずみをつけてから溶接



そのまま溶接を始めた

板組みの順番を説明



順番を取り違えた

縮み代を付けて野書き



図面寸法どおりに野書いた

言った ≠ 伝わった

伝えるだけで終わらせず、理解を行動で確かめる

伝え方を変える

絵を描く

現物に書く

実際に見せる



理解を確かめる

一緒にやる

本人に実演してもらう

確認する

伝わったかは、返事だけで判断せず、実際の作業で確認する。

最初から速さを求めず、正しく丁寧に作業する

慌てず、
作業は丁寧に。

新人に繰り返し伝えていた言葉



速さは、正しい作業が身についてから考える。

新人教育で大事にしていた、4つの考え方

01 守ることは、明確に教える

品質・安全・図面・規定を曖昧にしない

02 答えは、教えすぎない

まず本人の考えを聞き、理屈と見る場所を伝える

03 自分で考える余白を与える

条件の中で、段取りややり方を工夫してもらう

04 でも、任せっぱなしにはしない

一つの仕事ごとに確認し、任せる範囲を広げる

目指していたのは、手順をこなす人ではなく、自分で仕事を考える人だった。

一人の経験を、会社の教育資産へ

WAZNEXAは、現場経験を整理・言語化・図解し、教育資料として残します。



自社のベテラン社員の経験も、
1テーマから教育資料にできます。

AIで整理を速め、内容は現場経験者と確認しながら仕上げます。

WAZNEXA

新人教育・技能継承の資料化

制作相談・お問い合わせ

genba-base26.com